

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105016
法人名	社会福祉法人 道真会
事業所名	グループホーム はぶやま
所在地	松山市高岡町 7 7 9 番地 6
自己評価作成日	平成22年12月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

管理栄養士による献立で、栄養管理が出来ている。団地内にあり、山を背にして、季節の変化を体感できる静かな環境にある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所の「いつも笑顔 優しさ 思いやり」の理念のもと「素直な心・反省の心・感謝の心・謙虚な心・奉仕の心」を大切にしながら、管理者は、常に理念を振り返り実践できるよう、率先して模範となるよう努め、日々のケアの中で職員を牽引されている。
事業所では、この1年「ご家族との距離を縮める」ための取り組みに力を入れてこられた。これまで、面会時や家族会時等にも意見や要望はあまり出されないようであったが、ご本人の状態を細やかに報告されたり、家族会の議事録の送付や、さらに、毎月のお手紙に「ご意見ご要望をお願いします」と、一文を添え続けたところ、率直な声が届くようになってきたようである。「職員の顔と名前が一致せず、覚えられない」との意見には、各ユニットの入り口に職員の顔写真と名前を掲示されたり、「小口預かり金の使用目的や、いつ出金したかが分からない」という意見には、一ヶ月ごとに詳細をご家族にお知らせするようされた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム「はぶやま」

(ユニット名) 花

記入者(管理者)

氏名 柳原 ゆかり

評価完了日 22年 12月 15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ホールや事務所に掲示しており、朝の申し送り時の斉唱をはじめ、各職員がいつも念頭に置き、日々のケアの中で実践に取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所の「いつも笑顔 優しさ 思いやり」の理念のもと「素直な心・反省の心・感謝の心・謙虚な心・奉仕の心」を大切にしながら、管理者は、常に理念を振り返り実践できるよう、率先して模範となるよう努め、日々のケアの中で職員を牽引されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地区自治体の公園掃除に参加したり、周辺を散歩や、近所のスーパーへ買い物に出かけている。また、建物前、道路に面した場所に季節の花を植えて散歩を楽しんだり、1階玄関前のベンチは休憩していただいたりしている。	
			(外部評価) 散歩時、近所の方と挨拶をされたり、地域の方が雨に降り込められた際には、事業所の傘をお貸ししたこともある。近隣の小学生が夏休みの宿題の一環として、見学に来られたこともある。地区の公民館で行われた「認知症サポーター養成講座」を、職員も受講された。町内の回覧板から地域の情報を得られるようになっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 定期的に「はぶやま便り」を発行し、配布している。地域の方々に行事等に参加をお願いし、日常の見学をしてもらったり、運営推進会議等で繰り返しお願いしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	(自己評価) 前回の会議の概要説明、近況報告、その時の議題等、地域 住民、利用者の家族、行政、事業者が集う場として意見交換 を行い、要望等あれば必ず事業所内で話し合いの場を持 ち、解決につなげていくようにする。	
			(外部評価) 会議には、利用者も参加してお話を聞いたりされている。事業所か らは現状・行事を報告されたり「外部評価について」「口腔ケア」等、 職員研修の内容も紹介されている。事業所は、すべてのご家族に 会議の案内をされており、又、自治会の役員の方のお宅には毎 回、管理者が出席をお願いに出向いておられる。今年度は、ご家 族や地域の方の出席は少な目であったようで、管理者は「今後は、 形式にこだわらず、気軽に地域の方やご家族に参加していただ けるように、会議の内容や進め方を工夫していきたい」と話しておられ た。ご家族から「運営推進会議を抽象的なものより、具体化してはど うか」民生委員の方からは「小学生等、子供さん達と交流を持つと 利用者は喜ばれるのではないか」等の意見も出していたり、又、 町内の方からは「地域の災害時の危険場所について、等を教えて いただいた。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) サービス事業者会議には必ず管理者が出席するようにして いる。市の担当者に、介護保険の事や生活保護受給者の生 活について相談をしている。	
			(外部評価) 市の担当者から「職員の異動等も含め、ご家族への情報発 信は小まめに行うこと」等、アドバイスもあり、ほぼ1年振りに 「はぶやまだより」を作成してご家族に送付された。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正 しく理解しており、玄関の施錠を含めて身 体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修やマニュアルで勉強はしているが、難しい部分もあり、ま だ理解は不十分な点がある。基本的に身体拘束はしていな いが、やむを得ない時は、家族に十分に説明、理解を得て いる。	
			(外部評価) 精神的に落ち着かないような利用者で現在、両手に布製の ミトンを付けて過ごされている方がおられる。食事の時にはミ トンを外して食事をされるようだ。これまでビーズのクッション を手に持ってもらったり、折り紙をして気を紛らわす等、ミ トンをしなくても済むよう工夫を重ねてこられたが、支援に難しさ もあるようだ。ユニットによって、職員の人数が少ない夕刻時 等「帰りたい」と言って出かけて行く利用者がおられ、ユニ ットの入り口を施錠することもあるようだ。	身体拘束については、今後も職員で知識を深められたり、他 事業所の事例等もお聞きしながら、事業所での支援の工夫 を重ねていかれてほしい。利用者の状態や職員の人数等、 支援に難しい面もあるだろうが、利用者の安全を守りなが ら自由な暮らしが続けられるよう、利用者の立場に立って、今 後も原因を訪ね、支援を探していかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ワーカー会や勉強家、日々の業務の中で、意見や情報を交換し、より良い介護を提供できるよう職務内容の見直しをしている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ワーカー会で話し合う機会はあるが、内容を理解できていない点もある。以前、実際に利用者に活用されており、直接の対応は管理者が行っていたが、その内容は職員にも報告があった。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ケアマネージャー、管理者、家族、可能なら利用者、出来る限り話し合いの場を持ち、理解と納得を図るよう努めているが、まだ家族の中で不安な気持ちを持ったままの事もある。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 各フロア入口に意見箱を設置しているが、思うようには活用されていない。毎月、各家庭に送る「小口預かり金」の明細と一緒にお手紙や写真をそえ、家族とのつながりを深め、こまめにお電話をかけさせていただき、日々の様子をお知らせし、意見を伺うようにしている。	
			(外部評価) 事業所では、この1年「ご家族との距離を縮める」ための取り組みに力を入れてこられた。これまで、面会時や家族会時等にも意見や要望はあまり出されないようであったが、ご本人の状態を細やかに報告されたり、家族会の議事録の送付や、さらに、毎月のお手紙に「ご意見ご要望をお願いします」と、一文を添え続けたところ、率直な声が届くようになってきたようである。「職員の顔と名前が一致せず、覚えられない」との意見には、各ユニットの入り口に職員の顔写真と名前を掲示されたり、「小口預かり金の使用目的や、いつ出金したかが分からない」という意見には、一ヶ月ごとに詳細をご家族にお知らせするようにされた。	さらに、事業所のサービスの実際を見てもらったり、体験していただきながら、ご家族に具体的なご意見を聞くような機会を作ってみてはどうだろうか。又、ご家族の中には「職員が忙しそうに話しかけるのも悪い気がする」というような思いを持っておられる場合もあり、時にはご家族とゆっくりお話するような機会を作ってみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日頃より、どんな小さな事でも報告、連絡、相談を密にするよう心がけている。月に一度のワーカー会では、職員間で話し合う機会を持ち、少しでもケアの改善につなげていけるよう努めている。	
			(外部評価) 日頃から、職員は、折に触れて管理者に相談して、意見交換をしながら取り組まれている。毎週水曜日には、勉強会を行っておられ「職員に知ってもらいたいこと」をテーマに「事業所の理念」「接遇」「緊急時の対応」「オムツや散髪の費用」等について、管理者が講義されている。職員からも、これから学びたい項目を提案してもらえるようになったようだ。又、事業所では、外部研修の受講も推進しておられ、勉強会時に外部研修に参加した職員が内容を報告されることもある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回、個々で記入する(自分で自分を評価する)業務評価シートを作成している。その中で各自が目標をたて、職務についている。有休も希望に応じて取り入れている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員のスキルアップには積極的に取り組んでいる。今後、計画的に職員全員でケアの不十分な点を重点的に研修を受けていく予定である。勤務のひとつとして、研修を受ける事もあり、技術向上につなげている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者同士の会合や、交流会、外部研修等に積極的に参加をし、知り合う機会をつくっている。今後、相互の間で見学や訪問等をしていく予定である。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 調査票に目を通し、過去の本人の生活の様子、状態等を把握している。声かけを多くし、行動を見ながら安心して過ごせるよう努め、職員間で連絡を密にとり本人の要望にすばやく応えられるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に、まず管理者と家族が話し合う機会を持ち、安心できるよう努めている。面会時、気付いた事を報告したり、要望があるか等を尋ね、お互いに解決に向けた話し合いを多く持っている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族、本人からの聞き取りや、本人の特徴、状態をよく理解しておき、日常時の観察を密にし、何が必要なのかを見極め、支援につなげている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者一人一人の日々の生活ぶりを常に確認し、意思を尊重しながら、喜怒哀楽を共にして学びながら感謝の気持ちを忘れないように接している。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事がある時は、一緒に参加してもらったり、相互に本人にとって何が必要かを密に相談しながら、関わりを多くしていただくよう働きかけているが、理解をもらえない家族もいる。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時には本人との大切なひと時をゆっくりと過ごしていただけるよう配慮している。家族と自宅への外泊、外出、お墓参り等、支援の協力もある。	
			(外部評価) 法人内の他の施設に移られた方に、職員と会いに行くこともある。事業所で月に1回行っておられる「俳句会」で、利用者がお孫さんのことを詠まれた句が、居間の壁に貼られていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ホールには大きなソファが置いてあり、個々の好きな時間に一緒に過ごせるようにしている。どこにいてもホール全体を見渡す事ができる。会話が困難な方が多いため、コミュニケーションを図るのは難しい。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 本人、家族の意向を大切にしながら、電話をかけたり、手紙を出したりと、必要に応じて相談や支援に努めている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で本人との会話やふれあいを多くし、その仲から希望や意向等、具体的な事を聞き取り、実現に向けて出来る事から支援している。意思疎通の困難な人は、表情や動作から気持ちを汲み取るよう心がけている。	
			(外部評価) 昨年、新たにセンター方式を用いて、利用者一人ひとりの思いや願い、できることできそうなこと等についての情報を集めて、まとめておられた。管理者は「今後は1年ごとにアセスメントを見直していきたい」と話しておられた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 調査票の把握、本人と家族からの話しや、前施設の情報等、一つでも多くの情報を全体で共有するよう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の一日の様子をこまめに観察し、生活記録や生活日誌に状態を残している。気が付いた事も記録に残している。センター方式を使用し、個人の思いや現状の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 三ヶ月に一度、カンファレンスを実施している。本人や家族の参加は少ない。支援内容は、毎日チェックしており、次回の介護計画につなげている。状態変化のあった時はその都度新しく見直している。	
			(外部評価) ご本人やご家族の要望等をお聞きして「レクリエーションや散歩を楽しむ」「楽しいことをして気分転換を図る」等、ご本人やご家族の要望や希望を採り入れて介護計画を作成されている。毎日、介護計画に沿って支援できているかを「評価表」を作成して、介護計画の例に基づいて ×で評価して確認されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に毎日ケアプランに対し評価をしている。生活記録や日誌は、出来るだけ細かく記入するようにしており、個別のケースファイルに記録をしている。問題点等は意見交換をし、見直しや実戦に活かしている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の話しを聞き、色々な工夫をしながら、職員間でよく話し合い、出来る限り希望にそえられる対応が出来るよう支援している。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 何がしたいか、何が出来るかを見極め、畑仕事、お手伝い、掃除等を楽しみながら一緒に出来る事を提案している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	(自己評価) 母体医院がかかりつけ医となっており、月に2回の訪問診療を始め、体調不良や不安事項のある時は24時間いつでも相談、受診できるようになっている。他、状況に応じて本人、家族の希望により眼科、皮膚科等の専門医は入所前からのなじみの病院で受診もしている。	
			(外部評価) 病院受診の際には、ご家族が付き添われた場合でも必ず職員が同行されている。又、利用者が入院された場合は、毎日のお見舞いに行かれて、ご家族ともお話ししてこれからのこと等を相談されている。母体病院のかかりつけ医と連絡し合っ、いつでも相談に応じてくれるようになっており、指示を仰いでおられる。	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	(自己評価) 急な発熱や体調の変化が見られた時は、その都度主治医や看護師に電話をして聞いたり、訪問診療の際に相談、指示を仰いでいる。	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	(自己評価) 日頃より、利用者の健康状態はよく観察し、報告している。入院を必要とした場合、それに至るまでの状況等の情報を提供すると共に密に連絡を取り合っている。	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価) 職員間で勉強会や話し合いはしているが、心構えは出来ていない。本人、家族との話し合いも不十分である。今後、関係者間でお互いの意向を尊重しながら、施設の方針を共有し出来るだけ希望に応えられるよう全力で取り組んでいきたい。	
			(外部評価) 事業所では「利用者が最期まで事業所で暮らすことができるよう、支援する」という方針であるが、管理者は「職員は、看取りに対する不安が大きい」と感じておられる。「最期をどこで迎えたいか」ご家族に聞き取り等をされているが、現在は、ほとんどのご家族が「病院」を希望されているようだ。	
			今後、事業所の方針にも沿い、協力医療機関である母体病院との連携や職員の研修、利用者やご家族との話し合い等、看取り支援が行えるような体制を整え、ご本人やご家族から支援の希望があったような場合には、事業所でも支援できるように体制作りに取り組まれてほしい。事業所でできることを説明されたり、ご家族の不安や心配なことをお聞きするような機会等も作っていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成している。個々で学んだり、ワーカー会や勉強会での話し合いは定期的に行っているが、実戦となると慌ててしまい冷静に対応できない時もある。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成している。年2回の消防、避難訓練をしており、昼夜両方の対応を勉強している。地区の防災士等にも、施設内の見学や話し合いをし、お互いに協力や体制をつくる事に努めている。他、災害時の訓練も行っていくたい。	
			(外部評価) 10月に実施された避難訓練時には、消防署の方に避難の実技指導をしていただいたり「事業所の北側の山は大雨が降った時等、山崩れの危険性があるので、山崩れや水害の訓練も行ってほしい」「地元の自治会や防災士の方との連携を取り、話し合っていく必要がある」等の助言もいただいた。事業所独自で、火災発生時の抜き打ち避難訓練を実施されることもある。今年中にはスプリンクラーを設置する予定となっていた。	管理者は「作成した防災マニュアルを参考にして、水害や山崩れ等を想定した防災訓練も実施していきたい」と考えておられた。運営推進会議時に災害時の対策等のことが話題にも上がっており、市の担当者の方からは「地域の方も避難訓練に参加してもらってはどうか」とアドバイスをいただいた。いろいろな方と協力し合って、事業所や地域の安全や安心のための取り組みをすすめていかれてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩であるという尊敬の念を持ち、優しく丁寧な言葉かけや対応を常に心がけているが、忙しい時は、つい言葉が雑になってしまう時もある。	
			(外部評価) 調査訪問時、職員は「今日も頑張っていますね」と、利用者に意欲を持ってもらえるよう言葉をかけておられる様子うかがえた。ユニットによって「トイレの入り口の戸が壊れて」おり、開いたままで気まずい思いをする場面が見受けられた。又、ハルンパック(導尿パック)を気にしながら食事されている利用者も見受けられ、職員のかかわり等、配慮が必要と感ぜられる場面もあった。	この機会に、利用者の立場に立って、環境面やケア面について、利用者一人ひとりが尊厳ある生活が営めているか点検する機会にされてはどうだろうか。職員で気付いたことを話し合う機会作りや、時には、ご家族や運営推進会議のメンバーの方や外部者の意見を聞くような機会も作ってみてはどうだろうか。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) まず本人の声を聞くように心がけている。その会話の中で、本人の思い等を探すようにしている。意思疎通の困難な人は、表情や仕草から気持ちを組みとるようにしているが、職員側で決定する事が多い。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の流れは、大まかに決まっているが、その中で体調に合わせて個々のペースで過ごしている。自己決定が出来る人が少ないため、職員側で無理のない1日を過ごせるよう手助けする機会が多い。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 可能な人は、本人に服を選んでもらっている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 簡単な食材の下ごしらえや、お手伝い、料理法を話しながら調理をしたり、食事中に音楽を聞きながらゆっくりと食べていただいている。介助を必要とする利用者が多いため職員は一緒には食事はしていないが、メニューの話しをしたり和やかな雰囲気づくりに努めている。 (外部評価) 法人施設の管理栄養士が献立を立て、食材も法人施設から届くようになっており、職員が調理されている。利用者は、もやしの根取り等はされるようだ。毎月、一日は、利用者のお好きなお寿司に、献立が決まっている。食事時はテレビを消し、クラシック音楽が流れていた。調査訪問時、うどんがお嫌いの方に、職員が「けんちんうどん」の具を皿に盛り、汁を椀に注いでお出ししていた。そばアレルギーのある方には、そばの代わりに、そうめんにされている。利用者の食事中、職員は、介助に専念されており、利用者が食べやすいように食器を置き換えたり、お茶をすすめたり、食べる姿勢にも気を配りながら支援されていた。職員1名は、利用者と同じものを食べておられるが、職員は個々にお弁当を持参して、別の場所で食事をされている。食後、お膳は職員が下げるが、ご自分の湯飲みを下げている利用者が見られた。誕生会には、職員手作りのケーキでお祝いされている。	食事一連の流れの中から、利用者個々のできることできそうなこと等をアセスメントして、利用者のできることを支援していき、取り組みをすすめてみてはどうだろうか。利用者主体の生活を支援するグループホームの特長を活かして、利用者個々の役割や習慣、好み等を支援に採り入れ、取り組みをすすめていかれてはどうだろうか。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士がメニュー作成し、栄養バランスは取れている。個々に合わせて量を変えたり、キザミやミキサー食など、食べやすいような食事にしていく。水分、食事摂取量記載表を作成しており、必要な量は出来るだけ確保できるよう支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、全員必ず口腔ケアをしている。自分で出来る方には声かけをし、出来ない方には見守りや介助をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定期的に排泄誘導をしたり、本人の動きに気を配り、サインを見逃さず声かけをしている。	
			(外部評価) 昼間もおむつを使用されている方が数名おられるが、排便時はトイレでできるよう誘導されている。排泄のリズムに合わせて声かけてトイレ誘導されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分を多く摂っていただくよう配慮する。散歩で身体を動かしたり、おやつを工夫している。排便チェック表を作成しており、毎日有無が分かるようにしている。便秘が続く場合は、主治医のもと、下剤の服用もある。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 夏は週三回、冬は週二回と、ほぼ曜日と時間帯は決まっているが、本人の体調や気分によっては、曜日や時間をずらしている。入浴中はできるだけリラックスできるよう配慮している。	
			(外部評価) お風呂を好まれる方が多く「毎日でも入浴したい」と希望する利用者もおられるようだが、職員の体制等のこともあり、支援することに難しさがあるようだ。入浴に気が進まない方には、時間を置いて言葉かけ等をして支援されている。事業所にはリフト浴の設備があり、介護度が重度の利用者はリフト浴を使用しておられる。下着は、入浴のたびに替えることができるように支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝時間は本人の意思を尊重している。眠れない時は、せかさずにゆっくりと話し相手になっている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬ノートを作成、また一人一人の薬手帳があり、薬の名や用法、成分等一目で分かるようになっている。薬は一ヶ所にまとめて保管するようにしており、在庫も把握している。分からない事があれば、かかりつけ薬局に相談している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 簡単なお手伝い等、毎日してくれる方もいる。歌やゲーム、散歩やおしゃべり等、一人一人にあった楽しみを、生活の中から職員がを見つけ提供、支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望には添えない事もある。日頃の希望を聞いておき、日曜日等にドライブに出かけている。家族の方と一緒に外出(お墓参り)等、支援をいただいている。 (外部評価) 近所の公園まで散歩されたり、秋には、事業所の畑でさつま芋ほりをされた。ご家族の来訪時、ご本人と散歩されることもある。時には、法人施設の車を借りて、お花見やドライブに出かけたり、法人施設の文化祭やそうめん流し等のイベントに招かれて、出かけておられる。	外出支援について、車の制限もあり、皆での外出には難しい面もあるようだが、利用者個々の行ってみたい場所や日常生活の中での気分転換や楽しみごと、又、地域の方達との交流の活動を支援して、個々の暮らしを拡げていけるよう取り組みをすすめていかれてほしい。又、そのような事業所の取り組みをご家族等にも報告していかれてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご自分でお金を使える方が少ないため、持たれていない。買い物の際は、家族の方や本人と相談しながら職員側で対応している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 文字を書く事が出来る人が少ないため、自ら手紙を出す事は少ないが、毎月の小口預かり金明細送付の際に添える、一言メッセージや「はぶやま便り」等で近況報告をしている。職員が電話をかけ、本人に変わり話しをされている事はある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) テーブルやソファの配置を変えたり、季節に応じた手作りのカレンダーや花を飾っている。	
			(外部評価) 玄関には、千代紙やフェルトを使用して利用者と職員が一緒に作った小物の作品を飾っておられた。居間のガラス戸は大きく取っており、自然の光が入り、ベランダには洗濯物やふとんが干してあった。調査訪問時、利用者はソファでテレビを見たり、テーブルで新聞を読んだりされていた。猫のぬいぐるみやお人形を大事に抱いておられる利用者もおられた。食卓には、利用者が買って来られ、ご自身で生けた水仙の花が飾られ、壁には行事の写真や利用者が詠まれた俳句、職員と一緒に作成したカレンダーが掲示されていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールには大きなソファが置いてあり、みんなが集まって話しをしたり、テレビを見たり、思い思いにゆったりと過ごしている。南側の大きなガラス窓あたりでは、ゆっくりのんびり、ひなたぼっこ等出来る場所もある。	
			(外部評価)	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が使いなれた寝具や家具、中には仏壇を置かれ、気持ちのより所としている人もいる。猫好きな方等は、猫や動物の写真や絵等を飾ったり、たたみを敷いたり工夫している。	
			(外部評価) 各居室には洗面台が設置されており、調査訪問時の昼食後の歯磨きをされている利用者がうかがえた。利用者の希望や状態に合わせて畳を敷いている居室もあった。ご自宅から仏壇や使い慣れたタンス、テレビ等を持ち込まれ、冷蔵庫にはお好きな物を買って来て入れておられる利用者もいる。お孫さんの写真や誕生日に職員から贈られたお祝いメッセージの色紙、初詣に出かけた際の神社のお札を飾っておられる方もいた。ご本人の以前からの思い出のアルバムを大切にされており、時々見ている利用者もおられた。居室は毎日、職員が掃除されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりを設置している。ポータブルトイレを置いたり、車椅子自力駆動や、歩行に障害となる物は取り除く等工夫している。	
			(外部評価)	